

シクラメン葉腐細菌病の第1次伝染について

1 試験のねらい

本病は発芽直後から発生がみられることから、種子伝染が考えられる。また、鉢替え後に発生が多くなることから用土及び鉢からの伝染も考えられるので、種子、用土及び鉢からの伝染の有無について検討し、防除対策の資とする。

2 試験方法

種子伝染調査は、県内の7人の栽培者から入手した試料10点について、1点あたり100粒づつ試験管には種し、発病の有無を調査した。

用土による伝染試験は、滅菌した鉢に汚染した用土を入れ、モンブラン、シューベルト及び信濃紅の3品種を植付けた。鉢による伝染試験は、汚染した鉢に滅菌した用土を入れ、上記3品種を植付けた。

3 試験結果及び考察

種子伝染による病徴は、果胚軸が伸び、養分転流が終了し、第1葉が展開する時期に、果胚軸の腐敗として現れた。伝粧は低いもので1%、高いもので6%、平均で2.9%と自然感染としては高い伝染率が認められ、重要な第1次伝染源になるものと思われた(表-1)。

用土からの伝染は、シューベルトでは20日後に、信濃紅では40日後に発病枯死した。モンブランでは40日後に発病したが枯死しなかった。鉢からの伝染は、用土伝染に比べて軽い傾向があり、シューベルトでは20日後に発病し、60日後に枯死した。モンブラン及び信濃紅では発病したが枯死しなかった(表-1, 2)。

このように第1次伝染源として、種子、用土及び鉢伝染が認められたことから、防除対策として、種子の消毒、用土及び鉢の消毒が重要と考えられる。

4 成果の要約

第1次伝染源として、種子伝染、用土及び鉢伝染が認められ、種子伝染は第1次伝染源として重要であると考えられた。

(担当者 病理昆虫部・木嶋利男・花き部・峯岸長利)

表－1 種子伝染調査結果

試料名	発芽率		発病率 %	
	%	Bacteria	糸状菌	
田 中 赤	94	2	15	
〃 白	89	1	18	
菱 沼 パステル	65	3	29	
〃 ビクトリア	83	2	30	
〃 赤	91	3	53	
牧 野 赤	62	6	38	
鈴 木 赤	92	5	34	
海老原 赤	95	2	14	
池 田 赤	94	3	32	
高 口 赤	78	2	30	

表－2 汚染土からの伝染

区 別	品 種 名	発 病 程 度		
		8 月 5 日	8 月 11 日	8 月 28 日
汚染土壌	モンブラン	+	++	+++
	シューベルト	枯死		
	信 濃 紅	—	+	枯死
殺菌土壌	モンブラン	—	—	—
	シューベルト	—	—	—
	信 濃 紅	—	—	—

表－3 汚染鉢からの伝染

区 別	品 種 名	発 病 程 度			
		8 月 5 日	8 月 11 日	8 月 28 日	9 月 8 日
汚 染 鉢	モンブラン	—	—	—	+++
	シューベルト	+	++	+++	枯死
	信 濃 紅	—	—	+	+++
殺 菌 鉢	モンブラン	—	—	—	—
	シューベルト	—	—	—	—
	信 濃 紅	—	—	—	—